

会 議 録

1 会議名

第5回 上越市（仮称）厚生産業会館整備検討委員会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) ホール規模の再検討について（公開）
- (2) 子育て機能について（公開）
- (3) 建設場所について（公開）
- (4) その他（公開）

3 開催日時

平成24年5月25日（金）午前9時30分から

4 開催場所

上越市役所4階 401会議室

5 傍聴人の数

3人

6 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：赤羽孝之、樋口 秀、佐藤由起、田中昭平、田中弘邦、秋山三枝子
渡邊亮太、熊田僚己
- ・事務局：小林都市整備部長
都市整備課 奥田課長、阿部副課長、北島係長、松井主任、新保主任
こども課 田村副課長、白石係長、岡田主任、
高田地区公民館 保坂副館長、佐藤係長

7 発言の内容

(1) 開会（奥田課長）

ただいまより、第5回上越市（仮称）厚生産業会館整備検討委員会を開催させていただきます。

本日の会議につきましては、次第に沿って進めてまいりたいと思います。なお、本日の委員の出席状況につきましては、委員総数10名のうち、清水委員は都合により欠席、本日は9名の委員が出席されております。

従いまして上越市（仮称）厚生産業会館整備検討委員会設置要綱第6条第2項の規定により、会議は成立しておりますことをご報告致します。それでは、赤羽委員長からご挨拶をお願い致します。

(2) 委員長挨拶（赤羽委員長）

今回は5回目の委員会であります。我々は個人的な価値観や好み、主観的な思いで考えるのではなく、我々の背後には多くの市民の視線、ニーズが集まっていることを自覚していただいて、客観的に科学的に自覚を持っていただいて議論していただきたいと思っております。特に団体の要望、嘆願書が出ておりますが、それに動かされるということではなく、当委員会の基本に基づいて中立、公正な議論を進めていただきたいと思っております。それでは本日もよろしくお願い致します。

（奥田課長）

ありがとうございました。

尚、ただいま、甲田委員から連絡がありまして、急なご都合で本日はご欠席となりました。

大変申し訳ございません。従いまして本日の出席は8名でございます。委員会の成立は変わりません。

それではここで資料の確認をさせていただきたいと思えます。

始めに、事前に送付いたしました、

【資料-1】 ホール規模の再検討について

【資料-2】 建設候補地付近の交通状況について

【資料-3】 建設候補地の課題整理について

【資料-4】 建設候補地の図面について

それから、本日、受付でお渡しした「席次表」、各委員のお席には、本日説明に使用する「パワーポイント資料」、【資料-追加(1)】として「建物規模と概算建築費について」、【資料-追加(2)】として「子育て機能について」をお配りしております。また欠席されている清水委員さんから FAX にて意見をいただいておりますのでその写しもお配りしております。ご確認をお願いいたします。不足等がありましたらお知らせください。

それでは、これより議事に入らせていただきます。上越市（仮称）厚生産業会館整備検討委員会設置要綱第6条により、委員長が議長を務めることとなっておりますので、議事の進行は赤羽委員長にお願い致します。委員長よろしくようお願い致します。

(3) 議事（赤羽委員長）

それでは次第に従って議事を進めていきたいと思えます。

前回の会議から時間も経過しておりますので、前回同様、現在までの委員会の討議内容の確認、おさらいをしたいと思います。

まず公民館機能とホールの規模につきましては、相乗効果が期待できるということから合築するというようになっております。そしてそのホールの利用目的は、コンサートや音楽会等の発表会、会議や講演会、社交ダンス等の軽運動、展示会や販売会、またプロレスやボクシング等の興行系を想定することとし、バレーボールやバスケットボール等の運動系は想定しないこととすることから、座席は収納式とし、平土間としての利用が可能な多目的なホールとするということであったかと思えます。そしてその規模は、座席としては500席プラスアルファの100から200席程度とし、少ない利用人数の時でも空席感をなく

すために1階席部分は500席、2階席部分に100から200席程度を設けることとし、合計で600から700席程度とする。客席イメージとして充足感がある2階のあるD案とすることが確認されたかと思えます。

また、公民館は、現施設の利用状況と周辺の類似施設の稼働状況等から現在の部屋数と比べ部屋数を減らし、現在の15部屋を11から12部屋にして面積は600から800㎡程度とするということであったかと思えます。

そして子育て施設に関しては、樋口委員から長岡の「てくてく」のような子育て機能も検討すれば更なる相乗効果も見込めるのではないかとの提案もありました。

今回の第5回会議において市の意向が示されるということであったかと思えます。

建設候補地につきましては、候補地として有力と思われる4候補地に絞り込みを行いました。

以上が、前回までの内容であったかと思えますが、皆さんよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし

(赤羽委員長)

ありがとうございました。

これまで4回の委員会と視察を2回行ってきましたが、会議の雰囲気から概ね委員の皆様方のご意見もまとまってきたように感じています。そこで私のほうからの提案ですが、今回の会議で当委員会としての意見を集約し、次回、第6回目の会議で最終的な検討結果を取りまとめ委員会を終了させたいと考えております。特に建設場所については、様々な要望やご意見もあると思えますが、私どもはあくまでも委員会としての意見を集約していきたいと思っております。

以上ですが、委員の皆様いかがですか。

(各委員)

異議なし

(赤羽委員長)

それではそのような形で進めてまいりますので、よろしくお願い致します。

それでは、まず始めに「(1) ホール規模の再検討について」であります。これは前回の会議では1階席で500席、2階席で100～200席程度、合計で600～700席程度という意見でまとまりましたが、再度、事務局より委員の意見を頂きたいとの相談がありましたので、今回議事に入れさせていただいたものです。それでは、事務局より説明をお願いします。

(事務局 阿部副課長)

事務局より説明いたします。

資料-1の具体的な説明の前に、本日お配りしました資料-追加(1)、建物の規模と概算建

築費についてということで、今回の資料-1 から資料-3 を議論していただく参考として最初に簡単に建築規模と概算建築費についてということで第 4 回目までの議論、それと今回提案するものと合わせて若干説明をさせていただきたいと思っています。

この建物規模と概算建築費ですが、当初の計画としては合計で延べ床面積が 3,000 m²程度、建物の建築費が 11 億円くらいということで説明をさせていただきました。第 4 回目までの議論の中ではホール機能では D 案、要は 2 階席のあるプランということでホール規模としては席数も増えて 2 階になったということです。そうなってきますと延べ床面積は 3,000 m²から 4,300 m²になってきて建築コストとしては 17 億円位ということで 6 億円の増加ということになります。今回、資料-1 で説明をさせていただく提案が、これをホールの機能として前回説明した B 案 2 階席のない 1 階にした場合どうなるかということで、席数としては変わっていないのですが、1 階席のみにすると 14 億円位ということで、ホールの席数は変わらないのに 3 億円弱安くなるということがあります。それと資料-追加 (2) 子育て機能のところで説明させていただきますが、今回の市からの提案としましては、今までの議論としては一時預かり程度ということだったのですが今回は若干大胆な提案をしたいと思っています。面積的には 1,000 m²を超えるようなものを提案したいと思っており、1,100 m²程度で金額的には 2 億 3 千万円程度のものを今回提案したいと思っております。これの合計をしますと、ホールのパターン D 案ですと 19 億円になってしまうということです。これがホールのパターン B 案で 1 階席のみですと 16 億円位になるということです。当初の計画が 11 億円ですからそれから比較すると D 案は相当高くなるということで、今回コストの面を含めてみなさんから検討のほうをお願いしたいと思いますし、今後の議論の参考にしていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

(事務局 松井主任)

引き続きまして今ほど説明をさせていただきましたホールの部分につきまして、若干おさらいを含めて説明をさせていただきます。

第 4 回目まで皆様方に議論をしていただいた D 案の考え方というところでございますが、少ない人数でも空席感をなくすといったキーワードがあったかと思えます。それで 1 階席に 500 席程度、2 階席には 100 から 200 席程度ということでプラスアルファ分を設けまして全体で 600 から 700 席程度という D 案の考え方であったかと思えます。それを今ほど申しました通り詳細に確認していきますと 2 階席に客席を設けることで廊下やロビーなどを非常に広くとらなければいけないということが分ってきました。その面積がこちらで示させていただきましたように約 900 m²程度、これにかかるコストとしましてさきほどの説明にもありました約 2 億 6 千万円程度になりますが、こういった経費がかかるといったことが分かりました。これを受けまして市といたしまして、多額な費用で 200 席を確保する効果が若干薄いのではないかという見方をさせていただき、今回のご提案をさせていただきました。それで先ほど D 案と B 案というお話がありましたが、D 案と B 案は同じ機能なのですが、2 階席と 1 階席というようなもので確認をさせていただきます。客席数につきましては、同じ 700 席程度、平土間の面積、2 階席をなくすぶん平土間の面積が B 案のほうが若干広がるかなということで、約 500 m²程度といったところでございます。それで、市のご提案としましては、2 階席に拘らず空席感をなくすような工夫を行うことで B 案というような考え方もできるのではないかとといったご提案でございます。説明は以上になります。

す。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。ただいまの説明について、ご質問がありましたらお願いします。

それでは、客席パターンについてご意見をお出してください。コンサートホールの機能として、このスタイルについては、佐藤委員いかがでしょうか。

(佐藤委員)

B案のスタイルも決して悪いものではないと思います。音楽系のコンサート、クラシックのコンサート、発表会だけを考えると客席数については、上越市内の施設の感じを見ている限り必要ではないと思うのですが、ダンス等といったものが関係してくると広く必要なのかなということが、今までの委員会のなかで思った部分で、そのあたりはいかがなんでしょうか。

(赤羽委員長)

事務局、その辺はいかがでしょうか。

(事務局 阿部副課長)

D案とB案の比較としては、空席感をなくすということで2階席を設けたのですが、逆にB案のほうが平土間としての空間が若干広くとれるということですので、想定している用途としてはダンスや興行等、そういうものには使い勝手が良いと思っていますし、費用の面ですが、2階席を作ることによって席数全体が変わらないのに約3億円弱高くなってしまったら別のところというのも考えのひとつなのかなと思っています。

(赤羽委員長)

事務局の説明としては、ややお金のかかるD案をB案にして、そこで2億6千万円ほど生まれますね。それを子育て支援のほうへのスペースへということであったかと思います。ただ、前回までの議論の結果を踏まえますとD案が一番上品で洒落ていて、そしてコンサートホールの形としても優れている。そして空席感も無くなるのだということであったかと思います。

この規模の建物として数十年に1回という建物になるわけですが、現在の高田地区公民館は昭和30年代に学校として建設され、約50年経過しているわけです。多少お金がかかっても洒落たもの、胸が張れるものというのもひとつの考えかと思いますが、皆さんの意見をお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。田中弘邦委員いかがでしょうか。

(田中弘邦委員)

私は冒頭から2階案は考えてなく、D案みたいなのは考えていませんでした。2階もそれもそうなのかということで聞いていました。ですからこの変更することについて抵抗は無いですし、その方が良いのではないかという感じもするわけです。

(赤羽委員長)

田中昭平委員はいかがでしょうか。

(田中昭平委員)

経費削減ということを考えればB案でも差支えないと思いますが。

(赤羽委員長)

渡邊委員はいかがでしょうか。

(渡邊委員)

経費や採算のことを考えればそうと思いますが、赤羽委員長が先ほどおっしゃたように何十年に1度となれば、ほかの市町村に負けないような立派なものをつくって、どんどんイベントを開いて、とりあえずは市の主導で採算ベースが合うようなイベントを開いていけば良いのかなと思います。2階席でホワイエでの空間利用等も出来たりして建設コストもものすごく落とせるものかなと思います。建設コストについては、また違う面での努力も必要なのかなと思います。ということで、私は2階席のほうが良いと思います。

(赤羽委員長)

お金があれば2階席のほうが良いですが、コストの問題ですね。この問題は、我々としては仕方ない面もありますが、出来れば数十年に1回という建物ですので出来れば洒落たものという思いはありますよね。可能な限りそのような建物にしていきたいという思いはあります。

B案ですが、コスト的には1番お金のかからない第5案ですが、これはこれまで視察したくびき希望館に近い形でしょうか。規模は大きくなっていますが、スタイルとしては前面に可動椅子がありますね。この可動椅子は舞台の下に収納されるのでしょうか。

もうひとつは、コンサートや講演会ではこのスタイルで構わないのですが、演劇の場合はA案に近いほうが良いのかなと思いますね。

その辺は事務局いかがでしょうか。

(事務局 阿部副課長)

今日のご提案としては、渡邊委員からご提案があったように確かに2階席でホワイエとかそういう部分を有効活用するというのも考え方としてはあると思います。それはその場所がちゃんと決まって、ちゃんと設計するという段階にならないとわからないところがありますので、市としての考え方としては、2階席に拘らずに空席感を無くす工夫をするというのが今日のご提案ですから、プロポーザルとか基本設計の時には拘らないという形の中での提案をさせていただきたいと思います。例えば建築コストが安くなる、例えばその空間を上手に利用できる、そういうようなプランがでてくれば当然D案という形を考えられるのですが、前回では2階席を作るという形でしたので、今回はそれに拘らずに今後検討したいというのが事務局としての提案でございます。

(赤羽委員長)

2階席に拘らないという形ですね。2階席は絶対作るということではなく、できればここでコストを抑えたいということですね。

熊田委員いかがでしょうか。

(熊田委員)

前回欠席しましたので、D案に至った経緯を議事録で追わせていただいたところですが、私のほうは興行イベント、ダンス等からの立場からお話させていただくと、やはり先般の会議で提出させていただいた通りで、平土間の面積が広いほど我々ありがたいという点に変わりありませんので、B案でというご提案であるのならばそちらの方で進めていただければと思います。ただD案という形で2階席を入れられるというのは非常に斬新でございますので、我々としてはどちらサイドになってもまあ柔軟に対応できるようには進めたいと思っておりますが、面積が広ければできればありがたいなということですので、B案で進めていただけるならそれをお願いしたいと思います。

(赤羽委員長)

他にご意見ありますでしょうか。

佐藤委員どうぞ。

(佐藤委員)

質問ですが、私が今までコンサートしてきたところは、だいたい音楽のみをやってきたところで、ダンスとかそういうものと両方できるところの経験があまりなくて、そういったところを建築家の立場から聞かせていただければと思いますが。

(樋口委員)

仕上げ状況に応じては、このような形でも何ら問題はないと思っております。ほかの部分でコストを下げてでも多分コンサート等に関する音響や仕上げに関しては、設計段階で配慮していただけるように書いておけば何の問題もないかと思っております。

私もD案を推した理由と意見を述べさせていただきたいと思っております。ここの多目的ホールですが、コンサート以外にも先ほど平土間を使われるというようなお話もありましたが、そういう練習の時にでも連れの方々も2階席で見ることができたり、ふいに来られた方々や子供たちもこちらで見ている構わないという形で使えるという意味でも私はこのD案を推していた経緯もございまして。ただし、この平土間の面積が広いということが良いというお話がたくさんありますことと、やはり2階席を設けるとコストの部分であまりにも高すぎるということを考えますとB案でもそういう配慮をしていただければ解決できるのかなと私は思いました。

先ほどB案とA案の比較を赤羽委員長がされておりましたが、B案とA案のどちらがいいのかということになった場合には、この移動椅子を動かすのは大変ではあるのですが、逆に車椅子利用の方とかそういう方に対しては、移動もかなり可能かと思っておりますので、そこはオプションとして設計提案の段階で佐藤委員がおっしゃられた音響部分と合わせていろいろなバリエーションも組めるのかなと思いました。

(赤羽委員長)

先ほども言いましたように移動椅子のことですが、旧厚生南会館のようにパイプ椅子を並べるということではなくて、やはり収納型で引っ張り出して並べるといったほうが良いですね。

(事務局 阿部副課長)

B案という形の中での提案ですが、あくまで今日の提案は2階席に拘らないことですから要は1階席になった場合このような形も考えられるし、逆にA案も考えられますし、それは設計の段階で検討を進めてまいりたいと思っています。例えばこの平らなところですが、演劇とかでステージをもう少し広く使いたいというようなことがあった場合に、ここは椅子ではなくステージを広げる空間にも使えるかなと思っていますので、そういうことも含めて基本設計の段階で検討したいと思っています。

(赤羽委員長)

副委員長いかがですか。

(秋山副委員長)

特にありません。

(赤羽委員長)

それでは、ご意見をうかがいますと、やはりこの際事務局が言うコストというものを考慮して2階席に拘らない客席パターンでもよろしいという結論でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(赤羽委員長)

はい、ではそのようになりました。D案、B案については事務局に委ねたいということがあります。

続きまして、今ほどの事務局説明を参考に、多目的ホールの座席数についての考え方や平土間とした時の面積について基本構想(案)の段階とはいえ、建設コストの部分も非常に大切であると思います。また、一方では平土間の面積を広くとの要望も出されているのであれば、客席数も幅を持たせておいて2階席に拘ることはなく空席感をなくす工夫を行い事務局に検討してもらいたいということになります。

それでは、2番目の子育て機能について説明をお願いしたいと思います。

(事務局 白石係長)

こども課の白石と申します。今回初めてでございます。前回の委員会の中で子育て施設を検討してはいかがかというような意見を受けまして、市として改めてこの子育て施設を再検討させていただいて、その結果につきましてご説明をさせていただきます。まず、子

育て施設が市内でどうなっているかということは今までその説明がなかったので本題に入る前に今の現状を説明させていただきます。市内には保育園、幼稚園等ございますけれどもその他親子でふれあう遊びの場といえますか、そういったものがあります。その中で市内で一番大きなものとして、市民プラザの中にこどもセンターがあり基幹型という形で配置させていただいております。その他、子育て広場というものがございまして、こちらのほうは市内24か所ございます。詳細についてはこの後説明いたしますが、こどもセンターを基幹型施設といたしまして、その他に子育て広場が24か所、移動子育て広場というのが6か所ございます。それぞれの施設がどういったものかを若干説明させていただきます。まず、こどもセンターでございますが、広さが約862㎡ございます。プレイルームは約490㎡ございますがこちらのほうは毎日、平日、土日祝日も開設してございます。対象としては、小学校に上がる前の未就学の児童が主に利用しております。平日につきましては、皆さん保育園、幼稚園に行っておりますので、保育園、幼稚園に行っていないお子さんが平日は使えますが、土日になりますと保育園、幼稚園に行っているお子さんを含めて多くの親子に使っていただいております。特徴といたしましては、市内で一番大きなプレイルームを確保しております。その他に子育ての団体も使えるようにグループ活動室なども備えております。また、子育てのセミナーや親子のセミナーなどそういったものも充実している基幹型の子育て施設という形になっております。子育て広場につきましては主に市内の保育園に併設して作られております。広さはそれぞれ違いますが平均73㎡、学校の1つの教室が約65㎡ありますのでそれよりも若干大きな広さの中で親子が集まっているという形になっております。開設につきましては平日のみという形で、時間につきましても小さいお子さんが活動する時間帯を主に設定しておりますので、朝9時半から午後3時半くらいです。移動子育て広場につきましては、子育て広場がないエリアに毎日ではございませんが、こどもの家や公民館を使って平日に週1回または月2回の午前中だけ開設しております。例えば13区でありますと、大島区や牧区について毎日が必要ないのですが週1回ぐらいは集まって楽しんでいただくということで開設しております。主に利用者は平日のみですので0～2歳のお子さん、保育園に入っていないお子さんが親の方と一緒に、おいでいただいて、保育士が常駐しておりますので子育て相談、また、小さい赤ちゃんをお持ちの保護者の皆さんが交流する場として広場のほうは設定をしております。こどもセンターと子育て広場は何が一番違うかと言いますと、どちらかという子育て広場は小さい部屋で赤ちゃんと保護者と保育士がアットホーム的に遊ぶ、また、子育て相談も臨機応変に対応していくという形になっています。市民プラザについては大きいお子さんも来ますのでたくさん遊んでいただいて、それとセミナーなど講座等を積極的に開いて活用しているというような施設となっております。市内のこういった施設を合計31施設設置しておりますけどさまざまな課題を抱えております。そういった中で、今回厚生産業会館への子育て施設を考えてはということを受けまして、まずは課題の整理をさせていただきました。特に今回は基幹施設でありますこどもセンターについて検討を進めてまいりました。課題がいくつか浮かび上がってきております。そういった中で1つ目はスペースが手狭になってきている。先ほど申し上げましたが小さいお子さんから大きなお子さんまでが特に土日は混在して遊ぶこととなります。そういった形の中では子どもの年齢に応じた活動スペースが確保しづらくなってきているという課題が1つあります。2つ目につきましては以前から議論があるのですがこどもセンターの中に一時預かりの機能が備わっていないという

形になっています。近くにファミリーヘルプ保育園がありますが、そこはもともと保育園に行っているお子さんもそうですがお母さん方がどうしても今日一日仕事で子どもを預けなければいけないといった時に、1日単位で預ける設定とした施設となっていますので、今現在需要があるのは、例えば長岡も柏崎もそうですが、1時間単位で買い物や美容室に行ったりするときに気軽に預けれる一時預かりが必要だというようによく言われていますが、そういった状況の施設が市内にはない、また、こどもセンターに無いという状況になっております。3つ目は屋外施設が無い、外の施設と融和した施設が上越には無いといった状況になっております。この3つの課題を私どもは洗い出しまして、そういった形を踏まえた上で、候補地が4つあるわけですが、その候補地それぞれでこの課題をどのように整理できるかということで検討を進めてまいりました。4つの候補地がございますが、子どもの施設としては大きく考えて2つに分類して説明できるのではないかと考えております。1つ目は設置案高田公園の中であります。こちらにもし作った場合の特徴といたしましては、非常に敷地に余裕が出てきますので広いスペースのプレイルームを確保できる。2つ目は一時預かり機能も設置できる。また、3つ目といたしまして屋内外の一体型の施設が作れるのではないかとこのように考えております。市内ではそういった施設はございませんので、もし公園内であれば初めてという形になります。機能の位置付けとしましてはこれほどの機能ができるというのであれば今現在のこどもセンターの課題が全て解決されることとなりますので、こどもセンターの機能を縮小いたしましてこどもセンターに代わる基幹型施設と位置付けて、新施設では大きい子どものプレイルーム、小さい子どものプレイルーム、一時預かりなどの施設が全て設置できるのではないかと考えております。小さい子どものプレイルーム400㎡、大きい子どものプレイルーム400㎡となっておりますが、今こどもセンターの真ん中にありますプレイルームは約400㎡ございます。長岡の「てくてく」でございますが、あそこは大きいお子さんの大きい遊具を置いたプレイルームと小さいお子さんが遊べるプレイルームがございますがだいたいそこも約400㎡ずつになっております。そういったところを勘案した結果、このぐらいの広さがあれば幅広い子ども達が十分遊べるのではないかと、大型遊具も設置できるのではないかとこのことで1,080㎡としております。高田公園内であればこのぐらいの施設が必要ではないかと考えております。また、設置案のもう一つは高田の駅前と西城2丁目でございます。こちらにつきましては広さの制約もございます。また、立地ということも考えた結果、特徴としては中心市街地内にできる施設と。2つ目は高田公園内と一緒にありますが一時預かり機能が持てる施設です。3つ目は西城2丁目には該当いたしません。駅前の立地にできる施設ということが特徴として挙げられるかと思っております。この機能の位置付けとしましては大きい施設が取れるわけではございませんので、逆に今のこどもセンターのサテライト、連携する施設として位置付けて、新たに設置できると考えております。プレイルームはだいたい400㎡、こどもセンターの今のプレイルームをどちらかということと小さいお子さんが遊んでいただくプレイルーム、新しい施設のプレイルームは大型遊具を置いて大きいお子さんが遊んでいただけるプレイルームということで想定して検討した結果、新たな施設としましては約630㎡あればよろしいのではないかと考えております。また、こちらのほうは屋外の施設、一体型の施設が非常に困難であるということで、課題が残ってしまう形になっております。それぞれの設置案を比較しまして、プラス、マイナスの効果ということを考えて検討してみました。公園内の場合、プラスの効果はスペースが非常に取れるということで幅広い年齢

層の子ども達が安全に遊ぶことが出来ると考えます。2 つ目は屋外施設との一体的な運営ができる。3 つ目ですが、公園内に設置されますので遊具のみならず遊歩道や今ある既存の自然を使えば、遊びの幅や親子の楽しみ方が十分に広がっていくと考えております。マイナスの効果ですが、子どもの施設ということで考えますと公園内につきましては、マイナスの効果あまり思い当たりませんでしたので、この中では表示のほうはさせていただいておりません。次に設置案の高田駅前、西城 2 丁目の案であります。こちらのほうについては立地ということ念頭に考えますと一時預かりの機能を備えることによりまして、買い物客の利用も見込まれて、中心市街地の促進となると考えております。マイナスの効果ですがスペースの関係が出てきますので屋外の一体的な施設ができない、屋外が確保できないということと、他の建設候補の課題でも挙がってきておりましたが、周辺に風俗店があるということ子ども施設という視点で見ると印象としては良くないのではないかと私どもは考えております。建設候補地の課題整理の表のほうでも評価といたしまして◎○△とつけておりますが、こちらの表では表示はしておりませんが私どもが検討した結果、今ほどの比較を見ていただいても分かるかと思いますが公園内のほうが子どもの施設という視点で見ますと◎になると考えております。また、高田公園の中でもソフトボール場と高田公園プール跡地という 2 点をさらに検討してみますと今ある自然の調和や遊歩道、桜、蓮、芝生公園がすぐにある、近接しているところに遊具もあるということ考えると高田公園プール跡地のほうが◎になるのかなと、ソフトボール場のほうも悪いわけではないですが 2 方向が道路に挟まれてしまっていることを考えますと、親子、子ども達の移動を念頭に置くと、ソフトボール場よりも高田公園プール跡地のほうが安全面も含めて総合的に検討すると◎になるのかなと考えております。以上が子育て施設についての説明でございます。よろしく申し上げます。

(赤羽委員長)

ただいまの説明について各委員の方のご意見を伺いたいと思います。これまでの同委員会でも子育て支援機能については、それほど意識されてきませんでした。今回この機能はかなり大きくこの厚生産業会館の機能として考えなければいけないのではないかと思います。ですからこれまでは、公民館機能とコンサートホールの機能のふたつについて我々は中心に考えてきましたが、子育て支援も大事なのではないかということなのですね。その辺で委員の方々の意見を伺いたいと思います。

長い間公民館活動に関わってこられました田中昭平委員いかがでしょうか。

(田中昭平委員)

先日、北信越のソフトボール大会が黒崎のスポーツ施設であったのですが、子育ての公園が新しくできたのです。晴天に恵まれたせいもあってか、そこには親子連れが大勢おり、子育てにはこういう施設が良いのかな、とつくづく実感しましたね。家の中で親子で遊ぶというよりも、公園の施設がこれから絶対必要だなとつくづく実感しましたね。しかもそこに一旦入るとすべての付属施設があるために自動車で行かなくても良い。

外国の例もありますデンマークにはプレイムランドという子供の施設がありまして、雨が降った場合にはハウスの中で遊べる。その交流施設には全てのものが揃っており子供たちは自由に行き来できるようになっています。この遊びと運動が同時にできるデンマー

クのプレイムランドを11か所見てきましたが、どこへ行っても素晴らしい。ただいけないことは、子供が煙草を吸っているのです。私は驚いて聞いてみたら、子供が煙草を吸うのは親の責任ですからというので、その辺がちょっと違うなと思いましたが。いずれにしても今これからは、子育ての条件としてそういう公園施設が絶対用意していかなければならないなど。今の説明につきましてプール跡地とかソフトボール球場は公園の平場のところで良いのかなと思いました。今の白石さんの説明は良かったなと思います。ぜひともこの機会に作っていただきたいなと思います。

(赤羽委員長)

そういう方向で事務局も提案しているのですが、これまでは2つの機能の合築でしたが、今度は3つの機能の合築ということになるかと思えます。そこで女性の委員が2名おられますので、こういう機能があれば積雪の時期や雨の降る季節が1年のうちの1/3くらいあるわけですが、そういった時に広々とした施設で保育士もいて専門家もいて相談もできる。またママさん同士の交流もできるといったものは、特に日本の積雪のある地域には大事になるのではないかと考えられますね。女性のお二人に感想をお願いいたします。

(秋山副委員長)

私は基本子育て中心にライフワークをやってきていますし、この提案はとても良いことだと思うのですが、個人的にこれまでの活動を通して、またこの提案を全市的な視点でみた場合必要かなというちょっと疑問が湧いております。というのも子育て支援の枠というのは新しい良い機能を作れば作るほど地域からお子さんを連れてお母さんたちが駅から来る。今は逆に地域のなかで子供を育てようということが一つの流れになってきていて、私はどちらかという、地域のそれぞれのところで周りの年代の違う人たちからいろいろな意見を聞いて、育てる場をもう少し充実していったほうが良いのではないかと感じております。上越市21万人のなかで、今の市民プラザのこどもセンターがセンター機能としてあって、あとは各地域にこどもの家ですとか、公民館、コミュニティープラザのスペース、ハードの部分ではなくソフトの部分をもっと充実していったほうが子育て支援には良いのではないかと感じております。ですから今回樋口委員から提案があってありがたいことではあります。もしこれを本当にやるのであれば、もっと時間をかけて上越市の子育て施策としてどうなのかという結論でやっていかなければいけないのかなと思いました。以上です。

(佐藤委員)

私はまだ子供がいなくて実感としてはよく分からないのですが、姉に子供が2人いまして、小さい頃は家の中では遊びきれず、どこかに出掛けたほうが良いのかなという感じを受けていまして、市民プラザのところによく行っておりました。そういう施設ができるのは悪いことではないと思います。

(赤羽委員長)

佐藤委員は悪いことではないということ、秋山委員は現在既存の施設があるからもう少し充実させ、時間をかけて考えたほうが良いのではないかということですが。ただひとつ

の考え方として、国や県の財政的支援があるのでそれを利用して、この際、センター的なものを。現状でもいろいろな問題があり、先ほどの事務局の説明でもありましたように、今の市民プラザのこどもセンターでもスペースが狭い等いろいろな問題がありますね。ですからここで厚生産業会館の構想の中で子育て支援のスペースを取り入れて、できれば高田公園内で屋内外の一体型のプレイルームをもって充実したものを作れないかということなのです。それで事例として長岡の駅の子育ての駅千秋、その中にはいろいろなプラットフォームがあると思いますが、「てくてく」というのがあります。私もインターネットのサイトで見ましたが、長岡の行政の予想を超え3倍もの人が集まり賑やかになっている。ここでは、屋外の空間もありまして花壇や菜園、ミニ遊具、親子のふれあい、ママ友の輪や子育ての情報交換の場もあります。冬は外で雪遊びもできるということです。もちろん子育て相談等もやっておりまして、絵本コーナー、体操、エア遊具、いろいろ施設があるようですが、樋口委員にその辺を具体的に説明していただければと思います。

(樋口委員)

長岡の「てくてく」は知名度も上がって視察もたくさん来られるようです。委員長のほうからお話がありましたように、雪が降ったら外で遊べない、雨が多い等、そういうお母さんたちの要望で、天候に左右されず子供たちをのびのび遊ばせたいという発想から作られています。ご説明ありましたように想像以上にたくさんの方が来られております。これは専用施設でありますので、今回我々の委員会はホールの機能、公民館の機能をどうするかということだったと思います。私はこの2つを補完する意味でも単なる一時預かりではなく、また新しく新規の利用者を増加する意味でも一時預かりにもう少し子育て機能を付加してはいかがでしょうかという意見で、長岡の事例も出しつつ提案させていただきました。今ほどご説明を聞いていてこれを合築することで、もっとすごいことになるのかなという期待感もあり私の中では揺れているのですが、検討委員会の立場からするとあまり膨らませるのはどうかとちょっと懸念ではあります。子育て支援施設については、独立して考えるといったような立場、本来としては秋山委員と同じ意見です。ただこれを合築するというだけでもっと魅力的なことができるというようなご判断ならば、それもあっていいかと思っております。

立地場所について、設置案2の駅ではマイナス部分がたくさん出ておりますが、本来車でしか行けないようなところに子育て支援施設を作ってしまうと車を持たない親御さん達がなかなか行けないということがあります。ですから、そういう意見でいうとアクセスは均等であり公正であり、例えばバスを使ったり、自転車で行けない方でもアクセスしやすい場所というのは私はプラスの評価としてあげても良いかなと思いますし、周辺施設に風俗店があり印象があまり良くないということに対しては、逆にこういうところに入れながら行政指導をしていきながら、もっと良い空間を作っていくといったことも逆に緩和になるのではないかと思います。以上です。

(赤羽委員長)

ありがとうございました。渡邊委員お願いします。

(渡邊委員)

私はこの厚生産業会館のことだけではなくて、市全体として考えれば良いことだと思いますが、厚生産業会館で考えるとここまで大規模な施設よりも、コンサートを見にきているとか高田公園に遊びに来てちょっと寄れる程度の施設で良いのではないかと思います。あと旧ジャスコのところにあるこどもセンターやボランティアセンターとの併設、1階のジムのほうが空いた空間なので、そちらを充実させていくのもひとつなのかなと思います。

高田駅前の一時的預かりは、今、旧長崎屋に作っている中にレストランが入ってこないとかで空間が空きそうなので、そちらに据え付けて、こちらは厚生産業会館または高田公園を利用するに留めたほうが良いのかなと。先ほどコストのことを考えるとあまりいろいろ付け加えると何を旨としたのかわからなくなる雰囲気がでてきているので、そういうほうが良いと思います。以上です。

(赤羽委員長)

ただ国の財政支援を受けられるということですね。この際これを使ったほうが良いのではないかと思います。チャンスだということと、もうひとつは今後社会教育が非常に大事だと田中昭平委員が依然から言われています。生涯教育ということで高齢化社会としての拠点が公民館としてあるのだということ。公民館、社会教育の部分をもっと低年齢のほうに伸ばすというのもひとつだと思いますね。ですから公民館機能のひとつとして子育て機能はあるのではないかなと思うのです。ですから、そのように捉えれば、やはり公民館機能に包摂した形の一部として子育て支援の空間、ステーションという捉え方が可能だと思います。あれもこれもという訳ではなくて、公民館機能を更に拡大し、充実させていく方向ではあると私は思います。

熊田委員いかがでしょうか。

(熊田委員)

おそらくこの子育て施設を新たに作るということは、おそらく長岡市の「てくてく」「すくすく」を想定していると思いますが、私も実際子供を連れて行ったことがあります。施設としては非常に素晴らしい。幼児や乳幼児も遊べますし、幼稚園や小学校低学年位までだったらきれいに分けられていますので十分対応できると思います。現状のこどもセンターですとせいぜい幼稚園の年中位までで、年長さんや小学校にあがった子供だと現状のこどもセンターでは合わなくなっていると思いますので、保護者の目線から立ちますとこういった施設ができるのは非常にありがたいですし、歓迎するところでもあります。

厚生産業会館のホール機能プラス、公民館機能プラス、そこに子育て機能が乗っかってくるかという問題ですが、やはり立地といたしましては、高田公園近辺に建てるとならば歴史とか文化もひとつのアートバンクではありますので、生涯教育、社会教育の面では非常に公民館の観点からしても私はあっているのではないかと思います。以上です。

(秋山副委員長)

ちょっと次元の違った話になるのですが、私は転勤が多かったので自分自身で子育てをしたり、子供に関わる団体活動をしてきました。感じていることは、箱物作って機能を充実したら本当に良い子は育つのかなと感じております。実際、市民プラザのこどもセンターに連れていくとせいぜい持って15分。30分位いるとストレスが溜まる。帰ってから子

供は落ち着きがなくなる。私はこの上越地域が非常に自然環境に恵まれているので、できれば建物の中というより外は雨や雪が降って大変なのですが、自然の中で育てるということに、もうちょっと知恵を使ったほうが情操教育、感性豊かな子供たちが育つのではないかなと思っています。それと一番感じるのは、NPO 法人緑とくらしの学校という所が大貫の自然の中で園舎を持たずにやっております。視察で議員さんをそちらにお連れした時に、皆さん異口同音に“子供はこういうところで育てなきゃいけないんだよね”とおっしゃるのです。ですが、具体的になっていくと外で育てるというよりは、箱物を作って充実してそれが評価を得るという形になっていくのが矛盾を感じます。

今回、補助金がありという話ですが、これも補助金は頭では良いですが、ランニングコストも負担していかなければいけないので、それはいろいろな事例を見ても分かっていることなので、私はなるべく最低限の機能にしておいた方がいいなと思っています。以上です。

(事務局 奥田課長)

子育て機能につきまして大変活発なご意見をいただいております。賛成のご意見、いかなものかという慎重なご意見もございます。この件につきましては、皆様方から出されたご意見を市の中で再度検討させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

(赤羽委員長)

新しいセンター機能も良いけれども、その地域の中で子育てする、あるいは自然の中で。そういったサテライト機能をそれもまた充実する必要があるのではないかということであったかと思えます。そういう意味で、この構想を厚生産業会館の機能として考える場合においても、これまで既存のセンター、サテライトのネットワークを再度見直して改善していく必要があると思えます。

今ほど奥田課長さんからもお話がありましたようにこれにつきましては、さらに検討していくということで今日のところはよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(赤羽委員長)

要素として考えていきたいと思えます。

続きまして建設場所につきまして、前回までの会議で建設場所について議論があったかと思えます。これにつきまして事務局の説明をお願いいたします。

(事務局 松井主任)

説明をさせていただきます。皆様方にお配りをいたしました比較表の部分をご説明させていただく前に4回目の会議の中で皆様方からご質疑がいくつか出ておりますので、説明をさせていただきます。建設コストの比較ということで、平面型とビル型はどのくらい違うのかというような質問があったかと思えます。これは全国の事例などを参考にしまして

10%～15%ほど建設コストが増額するといった主な理由としましては、ビル型は柱の構造が太くなり材料費が増加すること、階段などの施設が増加してしまうということ、またビル型の上下階になっていきますが、遮音対策費などがかかってしまうということが見込まれます。

それからもうひとつのご質問がありました。交通処理についてご質問がありましたので私どもで調査したものを簡単にご説明させていただきます。各建設候補地へ幹線道路からアクセスするという前提のもと調査をしたものです。高田駅前へのアクセスルートです。西城町2丁目へのアクセスルートです。ソフトボール球場へのアクセスルートです。プール跡地へのアクセスルートです。このアクセスルートを基準としまして、各候補地で少し検討をしております。

はじめに高田駅前です。メインの出入り口ですが、青線でお示ししております。この道路を通りまして候補地への入り口。ここで考えられる課題としましては、ここに掲げておりますが、この200台が駐車場に入るのに約40分程度かかってしまうということや若干道路のほうに影響が出てしまうということが考えられます。逆に施設から市街へ出ていく時の影響として、ここは立体駐車場の建設が必須となりますので、その中で滞留をさせることによって道路への渋滞は免れるのではと考えられます。周辺の駐車場状況です。周辺には徒歩3分圏内で100台以上の駐車場がありますが有料であるということ。事前にこの駐車場を上手に使うことによって交通処理の緩和につながるというような見方になります。以上、このような見方で各候補地をまとめてあります。西城町2丁目でございます。簡単に申し上げますとこちらにつきましては、交差点があるということで非常に出入りがしにくい、危ないといったことが分かりました。また周辺には官民を問わず駐車場の存在がないといったことが分かってきました。ソフトボール球場でございます。こちらはメインのルートからの入り口、出るとき、特に大きな支障はございませんが、周辺の施設への利用の重複がなったときには駐車場が不足するのかなといったような見方になっております。プール跡地でございます。こちらにつきましては、両方向2方向からの車の誘導が可能になるということで駐車場の出入りの時に非常に短時間で処理ができ、周辺の道路にも特に大きな渋滞は発生しないのかなと思われまます。ただこちらもソフトボール球場同様、周辺施設とイベント利用が重なったときには駐車場の不足が生じるのかなといったところ です。以上が、4回目会議の中でのところで質問があったところの回答でございます。

この部分を踏まえまして課題整理に入っていきます。今回、4候補地の中でコストの部分、設計の自由度の部分、周辺の交通のアクセスの部分、周辺の環境、周辺の駐車場の状況といった5項目を○×△の表記にしまして事務局で評価をいたしました。1候補地ずつ簡単にご説明します。まず、建設コストでございます。高田駅前についてです。4候補地の中でビル型になってしまうということ、立体駐車場になってしまうということから建設費が一番高い場所になります。西城2丁目でございます。こちら敷地の形状からコストは2番目に高いといった部分で△の評価をさせていただきました。次にソフトボール球場です。こちらにつきましては、本体建設費のほかに関連費が若干発生するという、そういったことから建設コストは△とさせていただきます。次に高田公園プール跡地でございます。こちらにつきましては、他の3候補地と違いまして敷地がちょうどよい大きさということ、一部立体駐車場となる部分もございしますが、コスト的には一番安価で設定できるのかなということで◎の評価をさせていただきます。つづきまして、設計の自由

度といった部分になります。高田駅前ですが、こちらの敷地は非常に狭いといった部分で設計の自由度が非常に低いといったところでございます。子育ての部分に関しても野外施設は困難ということで△の評価です。西城 2 丁目でございます。こちらにつきましても駅前同様敷地の幅は若干広いものの、設計の自由度につきましても非常に低くなっているといった評価でございます。次にソフトボール球場でございます。こちらにつきましても特徴がございます。敷地が非常に広いといった特徴を持っているところ、敷地が広いといったところで設計の自由度が増してくるといったところで◎の評価させていただいております。次に高田公園プール跡地でございます。先ほど申しましたとおり、敷地がちょうどよい広さであることから、設計の自由度、子育て機能の検討も可能ではないかということで良まではないかと思いますが○の評価といったところでございます。つづきまして、交通のアクセスの部分でございます。こちらにつきましても今ほど前段でご説明させていただきましたので詳細は省略させていただきますが、高田駅前ですが車 200 台を駐車場に入れるために掛かる時間が約 40 分程度、逆に 200 台を出すためには約 60 分程度掛かってくるといったところでございます。ただ、周辺には駐車場もあるといったところで○の評価とさせていただきます。公共交通の部分については非常に利便性が高いといったところで○の評価とさせていただきます。次に西城 2 丁目でございます。こちらはアクセス道路の一部に一方通行がある点、小学校に近接しているといったところで通学路となっているところ、そういったところを見ますと△評価といったところになります。次にソフトボール球場です。こちらにつきましても、駅から徒歩圏内ではないといった部分、反面、車での利用が非常にしやすいといったところで、マイナスの部分もありますがプラスの部分もあるといったところでプラスの評価をしております。次に高田公園プール跡地でございます。こちらにつきましても、ソフトボール球場同様でございます。車での利用が非常にしやすいといった部分から○の評価をしてあります。つづいて周辺環境でございます。高田駅前でございます。周辺の飲食店との相乗効果、公共交通の利用者の増加という良い部分がある反面、交通渋滞、施設の周辺にあるお店の影響等も受けますが、中心市街地の活性化の促進といった部分で非常に優れているといったところで◎の評価をしてあります。次に西城 2 丁目でございます。駅利用者が増加するといった想定、周辺が住宅地となっておりますので配慮が必要、学校の通学路となっているところで安全確保の必要があるといったところで相対的には△の評価になるのかなと思われまいます。次にソフトボール球場でございます。駐車場、高田公園のシンボル性、観桜会等の景観、こういったところを評価しますと大きなマイナスにはならないのかなというところがございます。公園内であるといったところで効果も発揮できるのかなといったところがございます。次に高田公園プール跡地でございます。こちらソフトボール球場同様でございます。公園内であるといったところで非常に別の目線での評価を得られるということ、それから、周辺に住宅が無いといったところで騒音などの配慮に関してもあまり心配が無いといった目線で評価をしております。最後に周辺の駐車場の状況であります。高田駅前でございます。徒歩 3 分圏内には 100 台の駐車場があるものの有料になってしまうということ、また、駐車場を利用する時に周辺駐車場が利用でき渋滞緩和になるものの、有料駐車場といった目線で△といった評価をしてございます。次に西城 2 丁目でございます。周辺には駐車場が無いといった観点で×の評価をしてあります。次にソフトボール球場でございます。周辺には約 300 台程度の駐車場が確保されておまして、駐車場の柔軟性は非常に高いといった部分がある反面、

近接の施設とのイベントが重複したときには不足をしてしまうといった目線で評価をしています。次に高田公園プール跡地でございます。こちらもソフトボール球場同様の評価をさせていただきます。最後にその他の項目と言うことで少し考えられる点を挙げてあります。まず、高田駅前でございますが、駅に隣接しているといった部分で広域的な会議の誘致にも利用できるのではないかとという点が考えられます。西城 2 丁目に関しましては、交差点の中央部といったところもございまして、駅に近い部分はあるのですが特に特筆する評価はないといったところで確認をいたしました。次にソフトボール球場でございます。公園内のシンボリックな位置にある、それから周辺には飲食店が少ないということで昼食などは少し不便があるのかなといったところ、建築基準法上による特別な許可が必要になってしまうといったところです。次に高田公園プール跡地でございます。ソフトボール球場同様でございますが、南側にお堀が面しているといったようなところで、冬場の雪の処理が簡単にできるのかなといったメリットで評価をさせていただきました。以上○×評価を簡単にさせていただきましたが、これが今ほど申し上げました評価の部分でございます。各候補地で◎が付いているところが各候補地の特徴かなと思われまふ。また、西城 2 丁目に関しましては評価が少し低いのかなといったところ、また、プール跡地につきましては、平均して○が並んでいるということ、逆に言うとマイナスの点が少ない候補地であるのかなといったところが分かりました。説明につきましては以上でございます。

(赤羽委員長)

只今の説明につきまして内容面について意見があればお願いします。

(田中昭平委員)

綿密周到な現状分析の発表がありまして大変ありがとうございました。

ただ、これ 4 つを一緒にさげても委員会で一つに決めようというのはなかなか困難性があるということではありますから、複数の候補地程度でまず決めて、あとは市長の裁断に市当局に指針する形のほうが良いのではないかなと思います。それから今これ○△◎とありますが、更に厚生南会館がなくなって念願の代わりとなる厚生産業会館ができるということで、市として旧高田地域の市民の皆さんを中心にして上越市民が今回の厚生産業会館を建てることについて、どこに建ってほしいかなというような、高田地区市民中心としてどういう意見が集約的にあるのかなということが、これにプラス何かやはり参考になる意見として大事なように思うのですが、そのような点についてどんなものですか。

(赤羽委員長)

その辺の部分は高田地区の方々の市民アンケートというようなことでしょうか。商店街等要望など出ていますが、それ以外の市民の人たちの声なき声は、我々も考えなければいけないでしょうね。その面は確かにあろうかと思ひます。

ここで休憩を入れたいと思ひます。

(赤羽委員長)

第 4 回までは立地場所は 3 つの地区に分けて駅前地区、市街地と住宅地の境目、高田公園の地区、この 3 つのグループに分けて考えてきました。そのグループからいろいろ定義

はありましたが4つの地点、4つの場所が残っているわけです。高田駅前、西城の附属小学校の地区、高田公園からソフトボール球場とプール跡地ですね。

ここをどのように絞り込んでいくかということです。それぞれのプラス面とマイナス面、メリット、デメリットということでもあります。ここはフリートーキングですので、ご自由に意見をいただきたいと思います。

面積的に狭くなるとスタイル的にビル型になる。ですから公民館機能、ホール機能が重なるということです。この駅前地区と西城地区ですね。高田公園の地区であれば面積的に余裕ができて、平面型で分棟型になるということです。公民館とホールが並んだ形になる。その一体型か分棟型か、私は分棟型のほうが良いのかなと思います。公民館に関わってこられた田中昭平委員いかがでしょうか。

(田中昭平委員)

現実、課題整理をこれだけ行政当局が全体的な視点からこれだけの○×△◎で方向性を正確に説明なさったわけですが、○のひとつもない西城は具合悪いのではないかなと。見た限りでは。そこで、あと3つは◎が1つずつで残っているわけですから3つを最終候補地として、この程度で一応方向性ということで3つの候補地に決める程度で良いのではないのでしょうか。わずか9人か10人の委員会でここだと決める自信はありますか。ですから西城町は抜けて3つの推薦候補地に決めたと。せっかく南厚生会館が無くなって念願の長い期間の間でこれができるのですから、プラス市民の願いや声がどんなものかなというようなことも若干参考にして、これは逃げるといふわけにはいきませんが、最後は行政当局、市長さんに一任するのが良いのではないのでしょうか。ここでひとつに絞るといふのはなかなかというのが私の意見です。

(赤羽委員長)

私もそう考えているのですが、ただ最初から結論を言われても。ここで議論をしないといけません。ここは各委員の意見を重ねてそこに落ち着きたいと思います。

当初から西城の地区と旧高田公民館の地区については委員の評価は低かったと思います。今、載っている4つの比較表を見ても、西城は△が多いですね。やはり賛否方式でいえば中間の地区で言えば消えていくのかなと思います。基本的には高田公園の地区と駅前。このプラスマイナス評価になっていくと思いますね。その辺いかがでしょうか。

(熊田委員)

私は整備検討委員会の委員を引き受けさせていただきました。第1回目は施設候補地の見学に何か所か廻ったのですが、その時から高田公園の球場のところに建てるのが妥当ではなかろうかというのが1回目から変わっていないというのが正直なところです。面積の確保もありますが、ホール機能プラス公民館機能プラスましてや子育て支援センターとそこまであがった場合、やはり妥当な面積を確保できる場所にそういった複合施設を建てるのが自然の摂理だと思いますので、そういった点からいって私はソフトボール球場に建てるのが望ましいと思います。ソフトボール球場が1位でプール跡地が2位です。

(渡邊委員)

今回のことでコストのことが出てきているので、子育て機能のことを考えていくと、できるだけコストを抑えられるプール跡地のほうが良い。3回目くらいに田中会頭が言ったように一番良いのではないかと。ソフトボール球場のところに作ってしまうとまたそこで何かやりたいと言ってもやれなくなるという意見もあったので、やはりプール跡地が、大きく言えば高田公園地区が良いのではないかと思います。

(田中弘邦委員)

当初、私は、厚生産業会館というのは、厚生産業会館という目的だけで作るという考えでイメージを持っていた訳で、公民館も併設してそこに作りたいという話があり、そこに違和感があった。なぜ厚生産業会館に公民館を建てるのかなということがあった。そして、ここでこどもセンターも作るということになってくるとかなり内容が豊富になってきまして、せっかくできる施設ですから固執するわけではないですが、やっぱりメインとなるのは厚生産業会館がやっぱりメインになる。これが考え方なのかなと思っています。今いろいろな考え方が一緒に出てきてしまうと、前回でも申し上げたように相対的に考えて公園の中のプールのところが最適地だと。いろいろな面から、教育の面からも。こどもセンターを入れるとなるとなさら最も適当かなという感じになってきたのです。大々的な考え方としてそんな感じです。

(赤羽委員長)

以前においても高田公園がよろしいのではないかと言われましたね。分かりました。

樋口委員いかがでしょうか。前は駅前が候補でないかといわれましたが、いかがでしょうか。

(樋口委員)

今、田中委員のほうから単独施設のほうが分かりやすいというお話もありましたが、やはりこの施設、合築という複合施設であることから利用率向上ということもありますし、機能を補完することもできるのではということもあり、私は合築で構わないのではないかと思います。この場所については、周辺施設ですとか、既存の施設についても我々はかなり議論もしてまいりました。そういうところの補完関係も考えますと、やはり今でも私は駅前に利点があるのではないかと考えておりますが、先ほど子育て支援施設はいかがでしょうかという提案で、今日あれだけの資料を見させていただくと高田公園にこういう子育て支援施設もありつつ、このホールと公民館。子育て支援施設をホールと公民館に合築するのではなく、先ほど赤羽委員長もおっしゃったように敷地の中で機能分担はできるのかなと思いますが、この中にこんな魅力的なものがあるのも皆さんがおっしゃるように選択肢にせざるを得ないのかなというのが今の私の気持ちです。

ただ立体駐車場等に対して建設コストはかかるのですが、雨とか雪とか非常に暑い時にアスファルトの平面駐車場がありますと、子育て施設を例えば建設した時にかなり暑いですし、お母さん方が公民館なりに来られた時にも暴風の時にはアクセスもしにくいですので、この立体駐車場はその解決策にもなり得るので、コストの面ではかかりますがその点では○というのものもあるのかなというふうには思っております。簡単ですが以上です。

(田中昭平委員)

よろしいでしょうか。先ほどソフトボール球場が良いという意見がありましたが、私は若干それについて異論があります。ソフトボール球場が良いとなればプール跡地のほうが良いです。理由はある程度の財政を念頭において何でも、いいわ、いいわでお金を掛ければ良いのではなくて、あのソフトボール球場は50年も使っているスポーツ場なのです。厚生産業会館を作ってしまうとソフトボール球場とナイター施設として公式競技ができるようにすると、約3億以上のスポーツ施設を他につくらなければならない。それだけのものを代替措置の計画を立ててする用意があるのかどうか。またそこに作れば良いということではなくて現在あるスポーツ施設をどこに作って同じ競技施設として作らなければならない。そうすると非常に混乱する。あそこは数年前まで観桜会の駐車場だったのです。観光資源地域における自動車の駐車はやがて禁止になる。まだ高田はやっていません。ようやくあその駐車場なくなりまして川の土手のほうに駐車場を移しました。今後一切排気ガスというものをスポーツ施設や公園内における駐車はできなくなる可能性がありますね。静岡市ではスポーツ施設の区域4キロ以内は、自動車の乗り入れが一切できない。全部電気自動車に切り替えてありますね。そういう市がありますから安易に自動車200台も300台も確保できますと言ってもやがてこれは公害問題、排気ガス問題がきて自動車はそういう人間の一番大事な施設や会場にそういうものがだんだんだめになる。おそらくそうなりますから長い目でそういうことも考える必要があります。そう思います。今のこの数字からみれば私の意見からしてはプール跡地が一番良いかなと思いますね。

ただ高田駅前、若干、旧高田市民の皆さんが、私もかなり直接耳にしていますが、市民の声がかなりあるように思われるのですが、その辺のいわゆる声の段階的分析、そしてそれがどの度合いで評価するかこの辺が鍵になってくると思いますね。ですから先ほど私は市民の声と若干言ったのですが、そんなようなことで最終的にはひとつに絞っていくことは難しくないのではないかなと思います。

(赤羽委員長)

はいありがとうございました。それでは佐藤委員お願いします。

(佐藤委員)

○×△で見せていただくとやっぱり公園の敷地内が良いのかなと思います。子育て支援のそういう施設もできるのであれば緑の中のほうが気持ちよく過ごせるのではないのかなと思います。

(秋山副委員長)

今回まとめられたのは、候補地として絞った時からある程度予測された結果なのかなと思ってみています。その中であえて前回から高田駅前というところにこだわり続けているのは、なんとかこの、多分優位性が低い駅前に知恵を合わせることで活用できるのではないかなと思っているからです。駅前を考える時に実は200台の立体駐車場はイメージしませんでした。市民が公共施設を利用してそこに集まるというイメージでした。ですので、建物をビル型ではなく平面型で必要最低限の駐車場をとということを考えていました。もうひとつの候補地で可能性の高いプール跡地ですが、現地視察の時にここが一番避けたいな

と、なぜか直感でしかないのですが感じたところです。それは公園にとって裏側にあたりまして前はプールだったのですが、いずれも昼間の活動だったらいいのですが、ホールができて夜の出入りをする時に、性犯罪のおきる可能性がすごく高い。周辺の雰囲気とかが、それはもう感覚でしかないのですが感じました。とても暗いし周りに人けがないところに入っていくというのが個人的には情緒的な意見ですが感じました。それが配慮されれば良いのかなと思いつつ、プールの跡地に関しては自分としては避けたい場所です。ソフトボール球場に関してはいろいろなものを調べれば優位性の高い場所だと思いますけれども、駅前を、もう少しいろいろな知恵で可能性を探る段階があっても良いのではないかと思います。以上です。

(赤羽委員長)

駅前の可能性をもう少し探れるのではないかということですね。

私は個人的には高田公園と駅前の綱引きであったかと思うのですが、駅前は確かに重要な地区であります。ただやはり高田市街地の活性化、それは高田の歴史的な城下町の景観風土に関して言えば歴史資源を生かしていくということが大事なのではないかと思うのです。だからそういう意味でここは敷地が非常に細長いですね。しかもそこにビル型の建物ができる。高さも4階建てか5階建て。つまり屏風みたいなものになってしまいますよね。寺町が見えなくなる。景観風景を分断してくる。南葉山周辺の山景が見えなくなる。むしろこの狭い土地はやはり城下町の歴史文化をいかした開発が良いと思いますね。当面は直江津の駅に東西自由通路みたいなものも大事なのかなと思います。市街地活性化のためには駅前だということは認めますが、デメリットもあるということですね。高田公園地区はやはりお城の近くであり、シンボリックな場所であり、ランドマークでもあって県内外の人もこの場所を知っているシンボルの場所です。公民館というよりは、ホール機能ですね。かなり広い範囲から人が集まるようなイベントの場合、やはり高田公園の地区に勝る場所はない。この高田公園の地区でソフトボール球場には道路が2面走っています。そういう意味ではプール跡地のほうが図書館や二の丸地区との連携が可能になる。現状においては副委員長も言われたように寂しい地区でちょっと不安があり暗い。それを変えるということ为前提で、やはりここは可能性があるのかなと。ソフトボール球場のほうは発掘や堀がでてくるのではないか、がれきがでてくるのではないか、代替え地が必要になるのではないかという問題があります。ただ私もこの上越に30年位住んでいたのですが、やはりかつて厚生南会館が輝いていた頃は特に桜の花見、夏のはすまつりに合わせたイベントで花見の時が特に輝いていたなと思います。私も度々足を運びまして各種団体の詩吟、日本舞踊、大正琴の発表を花見に合わせてやっていました。雨が降っていても花見の時期は何かやっていました。発表の場は大事ですし、市民の生きがいや目標を与えていたなと私は思っていました。そういう意味で高田公園のプール跡地、この画を見ましてもやはり今の桜の花ロードは人気があって素晴らしいですが、花見の時のお客の流線に似たような形、それが大事なのかなと思います。その東側に忠霊塔の広場があり、公園の中の人の流れ、方向、ルート、それに面した形でホールがあるのは大事なのかなと思います。そのようなアプローチ等の配慮、その辺が必要なかなと思います。それとこの画を見ましても公民館とホールとの共有部分の練習室とかそういうのは、公民館との間にあったほうが良いですね。この図面には子育て施設のことが描かれていませんが、その辺を含めて再検討の必

要があるのかなと思います。

(田中弘邦委員)

いろいろ意見がおりでしょうし、しかしこの検討委員会で最終的に結論を出すのが使命だと思っているのです。2つも3つもあげて市にぶつけて市に選定して下さい。というのはあまり意味がないのではないですか。ただどうしても究極絞りきれないことになって委員長が判断して絞りきれないから2つなり考えてもらうことになると思うのですが。だいたい私はこの検討委員会が結論だしてきちっとやるのがひとつの仕事だと思っています。だから多少いろいろな意見、委員が全部考え方、細かく言えばいろいろな考え方を持っているし、またそれに反論するだけの考え方もお持ちだと思います。最大公約数がどうなってくるのだということになるとやはりそういう形で結論付けていかなければ委員会として責任を果たさないということになってしまう。だから委員会が適当に逃れて最終方向を他に任すという考え方はあまり私はやりたくないというのが基本的な考え方です。だから今までいろいろ議論してわかってきているわけですが、委員長がそういうことを集約していただければ良いのではないですか。

(赤羽委員長)

5回の委員会で公民館、ホールの規模、機能、立地場所についてもかなり絞り込んできたわけです。今4つが残っていて真ん中の地区はかなりマイナスである。結局は高田公園が残っている。今日の各委員の意見を伺いまして公園が有力ではないかということであったかと思います。ただルール上最終判断をたまたま委員に選ばれた人達だけで決めることができるのか問題があるのかと思います。最終決断は責任ある選挙で票をたくさん背負っている方の決断を請う。それはやはり大きいですね。ですから最後の1か所まで我々で絞り込めるのかというのはあると思います。

(田中弘邦委員)

これは基本的なことを言っているのであって、本来なら決めたほうが良いという考え方ですね。今委員長がそう判断しているならそれはそれで良いですよ。

(赤羽委員長)

きちっと決めてきたと思います。高田公園と駅前ですね。それぞれのプラス面、マイナス面があるということもこの一覧表、その他資料によって明らかですね。公正な判断をすればおのずと決まってくるのではないかと私は思います。

(田中昭平委員)

つい最近の話で高田駅前のことですが、高田駅、寺町だけの問題でなくてその地域が団地になってしまったのです。厚生産業会館ができれば高田の在来線になる駅の裏側の出入り口をぜひ作ってもらいたいと、そして第2の高田の町の裏側がもう主力の人が住んでいるのだと、それが、厚生産業会館ができることによってこの駅の裏口から電車に乗れるようにして作りたいのだと、だから近くの住民が請願を出しますと言って出して、そうなっ

たからといってそうなるわけではないのだよ、と言っています。それはそうだけれどもそれほどやっぱり高田駅前に作ってもらいたいというそういう住民感情というのはあるのだなということで、そこで私は先ほどから市民の声を若干配慮してあげないと、決めたら決めたら後で尾を引くことがあってはまずいのかなと思います。

(赤羽委員長)

直江津駅のように東西自由通路、そちらのほうがとりあえず大事なのかなと。ですからこの会館に合わせてそれを契機にということのようですが、そうではなくて自由通路のほうがまず先なのではないでしょうか。そうしないと交通の袋小路性の解消にはならないと思います。もうひとつ商店街からの嘆願書も出ていますが、しかし南城、北城、東城、こういった人達はまだ無言なんですね。無言であるからといってその思いに耳を傾けなくては良いのかという問題があると思います。商店街のほうはいつも出てくるのですが、お城の周辺の住民の人たちの思いもあるのではないかなと思います。それはなくなってしまった厚生南会館で活動したいろいろな思い出、想いがあると思います。そういうことも考えなくてはならないと思います。

(秋山副委員長)

今回この数字の入った資料をいただいたのが会議の直前だったものですから、もう少し時間があつたほうが良かったなと思います。ですので、今日冒頭で委員長が次回の時に最終案を取りまとめますとお話がありましたので、たとえば駅前でしたらこれだけの提示だけではなくもうちょっと複数の可能性と経費もみたものとか、公園の中でこの2か所も出し尽くされているのか等、それをもう少しみてからの判断、とりまとめを考えたいと思います。

(赤羽委員長)

もう少し詰めるところがあるということですか。

(事務局 奥田課長)

今、高田駅前等についてももう少しとりまとめるものがあるのではないかのご意見ですが、会議の冒頭、今回の会議の日程がずれたことを部長が申し上げたところですが、私ども今回の場所の選定につきましては、どういうことが判断の条件になるのかということで、外的なものではなく、数字を用意しておかないと判断が難しいだろうということから大変時間が掛かってしまったということです。それと、私ども今の段階では建設場所の検討の条件となるものは、出し尽くしているとも感じております。そういったことについては、大変申し訳ないですが、これ以上の要素をどういうふうに取り組んでいくかということでは、私どもは全部出し切っていると考えておりますので、駅前も含めて候補地についてはこれ以上の検討の要素は出てこないと思っております。

ここで少し休憩をさせていただきたいと思います。

(赤羽委員長)

では休憩といたします。

(赤羽委員長)

集約したいと思います。委員の皆様方のご意見をうかがいますと先ほども申し上げましたように高田駅前と高田公園のプール跡地とソフトボール球場が残っていますが、この高田駅前か高田公園か、この意見に集中したと思います。各候補地にそれぞれ多様な効果、メリットデメリット、プラスマイナスこれも見えてきたのですが、それらを比較するためにどのような視点を重視するのか、それは考え方によって議論の中心軸も変わってくるように思います。候補地の問題はさまざまな視点からの議論が可能ですが、この委員会で候補地を最終的に1か所に絞るということは難しいのかなと思います。従いまして2案の駅前と高田公園、今日の議論の推移を見ていまして有力候補地は高田公園なのではないかというご意見が多かったと思います。そのよう形でまとめたいと思いますがいかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(赤羽委員長)

では、当委員会の意見としては、高田駅前と高田公園。高田公園地区につきましては、どちらかというところプール跡地のほうが有力なのかなということでした。そこまで絞り込んであとは市の判断に委ねる形になるのかなと思います。最後は市長さんの決断、議会の判断になろうかと思っています。ということで高田駅前と高田公園にまとめるという形でよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(赤羽委員長)

飲食機能につきましては、候補地とも密接な関係もありますので、候補地が最終的に絞り込まれた後に、決まることになると思います。その辺については、市の判断に委ねたいと思います。ほかに何かご意見ご質問あればお願いします。

(各委員)

ありません。

(赤羽委員長)

以上を持ちまして、本日の議事は全て終了いたしましたので、議長の職を解かせていただきます。ありがとうございました。

次回の開催につきまして事務局お願いします。

(事務局 奥田課長)

大変、長時間にわたりご検討ありがとうございました。

次回の開催につきましては、本日日程表をいただいておりますので、日程を調整いたしまして後日事務局よりご連絡させていただきます。おおよそ6月下旬の予定になるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

尚、本日の会議録の確定版を上越市のホームページで公表するとともに、次回の会議の時に、今回の会議録をお渡しいたしますので、お含みおき下さい。

以上をもちまして第5回上越市(仮称)厚生産業会館整備検討委員会を終了いたします。本日は、長時間に渡るご審議、大変ありがとうございました。

8 問合せ先

都市整備部都市整備課公園管理係

TEL : 025-526-5111 (内線 1379)

E-mail : toshiseibi@city.joetsu.lg.jp

9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。